

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

卒園製作 シルクスクリーン

<テーマの設定理由>

今年度は記念品持ち帰り用と就学後の荷物入れを兼ねたトートバッグづくりにテーマを設定した。

子ども会議の中で「自分で考える力」「自分の意見を聞いてもらえる安心感や自己肯定感、自尊心が育まれ自己受容と自己理解の深まり」「話し合う中でのアイデアを出しあい、まとめていく力」など、心身の発達における様々な要素を経験した。

それらを踏まえシルクスクリーンを用いたトートバッグづくりにおいて「自分の作品が新たな形になる満足感や達成感・特別感」「卒園や就学に向けた不安から期待への変化」など良い影響が考えられるため本園では記念品として取り組んでいった。

2. 活動スケジュール

卒園製作の作成を行った

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

安全に取り組めるような保育室の環境整備。自分が選んだ絵柄・カラーがわかる写真。印刷業者のhp。一人ずつ行うためのテーブル。MAXHUB。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子ども会議の中で決めた絵柄やカラーを確認し、一人ずつインクを図面に出したり、保育士と一緒に刷っていった。2テーブル用意しインクと絵柄別に一人ひとり行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた**子ども**の姿、保育者との関わり等)

「私は（僕は）〇〇の絵の〇〇色です」と決めたことを業者とコミュニケーションをとる。また最終的に間違っていないか子ども会議で話した内容をmaxhubで確認し自分の名前にチェックしていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども会議の中で決まったことに楽しみを持ちながら当日を迎えた。実際に目の前に出てきたインクや様々な画材を見て「あれが私（僕）のかなー」と期待を持つ子や「上手にできるかな」とドキドキ・わくわくしている気持ちを言葉で表現する子がほとんどだった。また会議から当日まで期間が空いたにもかかわらず一人ひとりが納得して決めたことに関して忘れていく子や何にしたか自信がない子が見られず、聞かれても答えられる子がほとんどであった。

自分の色や絵柄が決まるまでには時間を要するが、決めたことが形になるとときには自然と笑顔や完成品に愛着を感じている様子があった。長い期間ではあるが子どもたちが決めたことを形にすることには大きな意義があり、今後の見通しを持つ上で、子どもたちが主体的に話し合いや自分達のことを決める大切さは改めて感じている。